

鶴の架け橋交流事業「さつま&つるたにぎりまんま塾2025」

子どもたちが結ぶ両町の友情と絆

「鶴の架け橋交流」は、合併前の旧鶴田町（つるだちょう）（現在の鹿児島県さつま町）と当町が「鶴田町」という同じ町名が縁で平成9年に姉妹都市盟約を締結して以降、両町の活性化を目指すため、幅広い分野で展開してきた交流事業です。

両町の子どもの交流は、「未来の翼2004」（平成16年）で、当町の子どもたち41人が旧鶴田町を訪問したのが始まり。

今回の「鶴の架け橋交流」には小学生、中学生、町職員など22人が参加。7月31日から8月3日の4日間の日程で6年ぶりにさつま

町を訪問しました。

「さつま&つるたにぎりまんま塾2025」と題した今回の交流では、子どもたちが郷土料理や伝統工芸などに触れ、南国の風土や習慣の違いを体験することにより幅広い視野と寛大な心を育むことを目的としています。

7月31日、国際交流会館ホールで行われた出発式では、成田光成君（中学2年）、笹森晃希君（中学3年）、澁谷鉄平君（中学3年）が「感謝の気持ちを忘れずに、この貴重な経験をを通して、たくさんのお話を学び、友だちをつくり、成長して帰ってきたい」と思います。私たちが両町の架

け橋となるよう南国の友と存分に交流を楽しんでいきます」とあいさつ。家族に見送られながら、18人の子どもたちが期待と不安を胸に鶴田町から約2,000km離れたさつま町へ出発しました。

3泊4日の滞在中、同世代の子どもたちと一緒にバンガローに宿泊。竹とんぼやウグイス笛づくり、金魚ねぶた制作、河川体験などを通して、両町の文化を互いに楽しみました。全員が初めての河川体験では、水のキレイさに驚き、魚を間近で見られて感動した様子。魚を捕まえようと夢中で追いかけている姿があちこちで見られました。夜は、夏祭りに参加し、さつま町の子どもたちと一緒に作った金魚ねぶたを持って、カネや太鼓を鳴らしたり、ハネトになったりして笑顔いっぱい楽しい時間を過ごしました。

さまざまな体験をすることで、子どもたちが両町の文化や習慣について、理解を深めながら、友情と絆を育んできました。



1



2



3



▲鶏飯



- ① 何つかまえたの？興味津々、川での学びと発見
- ② 高く飛べ！空に向かって竹とんぼ飛ばし大会
- ③ 初めての鶏飯（けいはん）に舌鼓
- ④ さつま町の太陽と大地が育んだ、極上のぶどうを味わう
- ⑤ うぐいす笛作り うまく鳴るかな？ドキドキしながら吹いてみた
- ⑥ 青森県の伝統！みんなで楽しく金魚ねぶた制作
- ⑦ 桜島をバックに記念撮影
- ⑧ 澄んだ水に大興奮！笑顔いっぱいの河川体験
- ⑨ みんなで協力して焼いたお肉は格別！

さつま町訪問団



工藤 瑠々羽



澁谷 徠依



須藤 花



石岡 蒼治



坂本 涼丞



小関 徹朗



三橋 穂乃花



葛西 来



小関 翔瑛



木村 藍里



成田 光成



太田 怜亜



木村 琉伽



笹森 晃希



坂本 一馬



小関 愛乃



澁谷 鉄平



長尾 俊幸